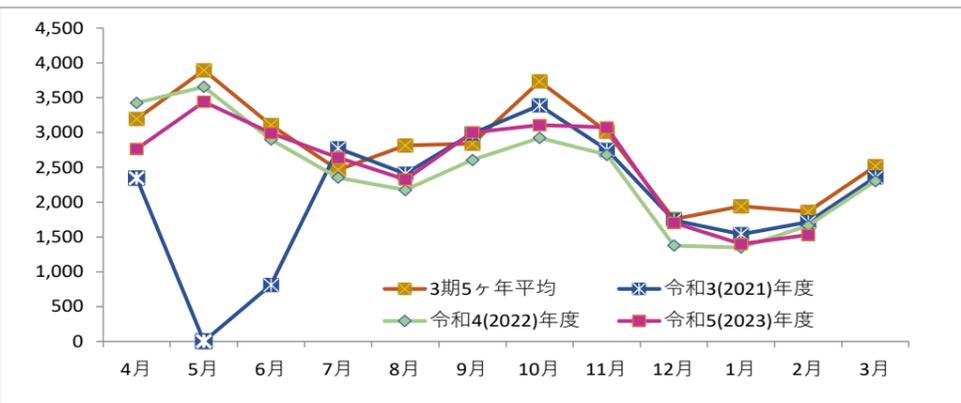


令和5年度下半期(10月～3月)の園内利用について

下半期のふれあいの森は、冬の到来と共に昆虫が姿を現しづらくなっていましたが、冬越ししている昆虫などを採りに来られる方や、ノスリやリビタキなどの冬鳥を観察しに来られる方もいらっしゃいます。冬が訪れたのも束の間、ふれあいの森では菜の花が1月上旬には開花していたり、2月中旬にはニホンカナヘビが姿を現すなど、自然の変化が春の訪れを感じさせました。

これからより暖かくなり生きものが出てくるのが予想されます。そこで、ふれあいの森では虫取りアミや虫かごの無料貸し出しを行っています。また、森の館では、外来種について考えるアメリカザリガニの展示をしました。そして、冬でも見ることができ昆虫の標本や、冬鳥を紹介する展示の他、図書コーナーには、図鑑や幼いお子様でも楽しめる絵本もご用意しています。これらを用いながらスタッフが生きものや植物など旬の情報を提供していますので、是非森の館にお立ち寄りください。



アメリカザリガニ展示



冬鳥の展示



昆虫標本展示

堺自然ふれあいの森では、FacebookとInstagramの2つのSNSを運用しています。Instagramでは季節の自然を、Facebookでは季節の自然に加えて、スタッフの日常やイベントのお知らせを発信しているので、ぜひフォローしてチェックしてください。



Instagram



Facebook



Instagramには旬の自然風景の写真を掲載しています♪

オリジナル缶バッジ or ポストカードプレゼント

ふれあいの森のInstagram登録 or 利用者アンケート記入 でプレゼントします。詳細は森の館のスタッフにお尋ねください。グッズが無くなり次第終了となります

堺自然ふれあいの森

開園時間 9:00～17:30(3月～10月)・9:00～16:00(11月～2月)
休園日 月曜(祝日の場合は、翌日休み)、年末年始
入園・入館・駐車場 無料

〒590-0124 大阪府堺市南区畑 1740

TEL 072-290-0800 <http://www.sakai-fureainomori.jp/>

バス 泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側2番のりば「鉢ヶ峯行き」
「公園墓地北口」下車 徒歩 約1,200m
※日・祝は「堺公園墓地行き」あり。「自然ふれあいの森前」下車すぐ

車 阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5Km
「堺公園墓地」を目標にお越しください

発行 堺自然ふれあいの森 指定管理者(ふれあいの森パートナーズ)

ふれあいの森パートナーズは、(株)生態計画研究所・NPO法人いっちゃんクラブの連合体です。



堺自然ふれあいの森

ニューズレター 第48号

発行：令和6年3月 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)

令和5年度下半期(10月～3月)の普及啓発活動

および団体受入について

1. 普及啓発活動①

■2023年11月25日 竹の楽器作りと森の音楽会実施



ふれあいの森では、里山を維持するだけでなく、豊かな自然を活かして自然観察の場や憩いの場となるように運営しています。その一つとして、森に生えている竹を活用した楽器作りと音楽会を実施しました。

竹の楽器作りでは、地域団体「泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト」のメンバーと連携し、ふれあいの森に生えている竹を切り、それを用いて楽器を作りました。参加者は、ノコギリなどを使って、大人も子供も一生懸命に楽器作りに取り組みました。楽器は叩いて音を出すものや、こすって音を出すものなどがあり、参加者は多種多様な音色を奏でました。その音はふれあいの森に来た人たちの耳目を集めました。

午後からの音楽会では、地域に根差した音楽を奏でるSkylishにお越しいただき、演奏会を行いました。地域の自然や生きもの、堺市から出土した須恵器などをイメージして作り上げた曲を演奏してくださいました。

午前中に竹の楽器作りに参加していた方は、作った楽器を使ってSkylishとのセッションに参加しました。演奏する人も聴く人もみんな笑顔で、作り上げた音楽は森の奥まで聞こえてきました。

竹の楽器作りと森の音楽会を合わせると、未就学児からご年配の方まで幅広い年齢の方々がたくさん参加してください、のべ約100名ほどにまでなりました。



1.普及啓発活動②

ふれあいの森では、様々な体験プログラムを通じた、里山文化の継承に力を入れています。里山文化の体験プログラムとして、10月に稲刈り体験を行いました。この稲は6月に田植え体験のプログラムで植えたもので、12月の収穫祭では、刈った稲から取れたもち米を使って餅つきをしました。また、10月には畑で育てたワタとラッカセイを収穫する体験も行いました。1月には季節の里山あそびのプログラムにて、里山の原風景として広がるススキ草原を再現した場所からススキを採ってほうきを作りました。2月の糸つむぎ、機織り体験では、糸車を用いてワタから糸を紡いでいく体験や、機織り機を使ってコースターを作りしました。

このように、ふれあいの森では里山文化を体験できる多くのプログラムを実施していますので、ご興味のある方は是非ご参加ください。



稲刈り体験(10月7日)



ワタ摘みとラッカセイ掘り体験
(10月21日)



季節の里山あそび
(1月7日)



糸つむぎ、機織り体験
(2月3日)

2.団体受入れ状況

10~3月までの団体受入れは、小学校25件、幼保・こども園25件、その他19件でした。団体に対しては、「森の説明」をはじめ、野外でのプログラムとして「森のクイズラリー」「生きもの観察」、室内でのプログラムとして「ワークショップ」の他、「バードコール」や「壁掛け作り」、「木のペンダント」などのクラフト体験を実施しました。また、里山文化の体験として「草木染め体験」も行いました。

草木染め体験は染めるための植物を採るところから行い、植物を煮て染液を作ったり、布に模様付けをしたりと染色の色々な工程を体験していただきました。里山の自然に触れるだけでなく、体験を通じて、昔の里山での暮らしを肌で感じられるプログラムとしました。

また、今年度よりふれあいの森では教員を目指す大学生インターンの受け入れを始めました。インターン生には、小学校プログラムの準備や、小学校の出前授業の他、教員研修のサポートなどの団体対応に関わっていただきました。これらは教員を目指す際に必要となる、子どもとの接し方や教員側の動きを学ぶ機会になります。小学校のみに限らず、未就学児に対して接する機会もあり、幅広い年齢層の子どもたちと接する機会を設けました。また、インターン生がプログラムを考案し、提供することを通して、目的意識を持って取組み、役割分担などのインターン生間でのコミュニケーションをとる経験も提供しました。



草木染め体験プログラム



インターン生の活動①
(プログラム準備)



インターン生の活動②
(出前授業のサポート)



インターン生の活動③
(教員研修のサポート)



インターン生の活動④
(未就学児の団体対応サポート)

令和5年度下半期(10月~3月)の里山環境の 保全活動・普及啓発活動の担い手育成について

■ジュニアレンジャーと大学生インターンによる保全活動

中学生~高校生を対象とした年間登録制プログラム「ジュニアレンジャー」と、大学生インターンが力を合わせて里山環境の保全整備を実施しました。大学生はふれあいの森でのインターン活動において、里山保全活動の指導者としての実習を受けており、ジュニアレンジャーの中高生は大学生に木の切り方などの具体的な技術や保全整備の考え方などを教わりながら現場で実践しました。また、これらの活動を普及啓発する場として、大阪自然史博物館で実施された「大阪自然史フェスティバル」に出展しました。2日間の開催期間中、約2万人の来場者が訪れました。出展する展示の作成や当日の解説もジュニアレンジャーと大学生が協力して実施し、中学生~大学生までの年齢層が一体となって保全に取り組むことができました。



落葉樹の実生の保全作業



泥上げ作業による湿地づくり



保全緑地での伐採整備作業



出展内容の準備



高校生による来場者対応



大学生による保全の取り組みの解説

■年間登録制プログラム「里山kids」での哺乳類調査の実施



センサーカメラを設置する様子

小学校4年生~6年生を対象とした年間登録制プログラム「里山kids」の活動の中で、センサーカメラを用いた哺乳類調査を実施しました。調査方法の指導を受けた小学生メンバーが、自分たちで調査地点などを話し合いながら、センサーカメラを設置しました。その結果、外来種であるハクビシンの初確認や大阪府の絶滅危惧種であるキツネの確認など、多くの哺乳類の生息状況を記録することができました。保全を実施するためには、日ごろの調査データの積み重ねが欠かせません。里山kidsの小学生たちの活躍で、哺乳類調査のデータが蓄積されました。



センサーカメラを確認する里山kids



カメラに映ったハクビシン



カメラに映ったキツネ